

平成27年度

第6回いわき市教育委員会議事録

平成27年9月30日（水）



## 第 6 回 教 育 委 員 会 記 録

- 1 開会年月日 平成27年 9 月30日(水) 午前 9 時30分
- 2 開催場所 教育委員室
- 3 出席委員
- |          |         |
|----------|---------|
| 教育長      | 吉 田 尚   |
| 教育長職務代理者 | 馬 目 順 一 |
| 委 員      | 蛭 田 優 子 |
| 委 員      | 山 本 もと子 |
| 委 員      | 根 本 紀太郎 |
- 4 欠席委員 な し
- 5 説明のために出席した者の氏名
- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 教育部長                | 増 子 裕 昭 |
| 教育部次長兼総合調整担当        | 鈴 木 隆   |
| 学校教育推進室長            | 松 岡 勇 雄 |
| 中央公民館長              | 草 野 互   |
| いわき総合図書館長           | 夏 井 芳 徳 |
| 美術館長                | 佐々木 吉 晴 |
| 教育政策課長              | 松 島 良 一 |
| 教育政策課教育施設整備室長       | 猪 狩 孝   |
| 生涯学習課長              | 高 田 悟   |
| 文化・スポーツ課長           | 鈴 木 庄 寿 |
| 学校教育推進室学校教育課長       | 草 野 仁   |
| 学校教育推進室学校支援課長       | 長谷川 政 宣 |
| 教育政策課長補佐            | 金 成 晃 彦 |
| 教育政策課教育施設整備室主幹兼室長補佐 | 引 地 克 宏 |
| 教育政策課教育施設整備室主任専門技術員 | 鏝 健 一   |
| 生涯学習課長補佐            | 藤 原 良 基 |
| 文化・スポーツ課長補佐         | 篠 原 美 紀 |
| 文化・スポーツ課長補佐兼文化振興係長  | 久 野 征 浩 |
| 学校教育推進室学校教育課長補佐     | 太 則 子   |
| 学校教育推進室学校支援課主幹兼課長補佐 | 柴 藪 聡   |
| 学校教育推進室学校教育課管理主事    | 塚 本 英 樹 |
- 6 書 記 教育政策課主任主査兼総務係長 草 野 康 弘
- 7 閉 会 午前10時21分

会議の概要

**教育長** ただいまより平成27年度第6回いわき市教育委員会を開催いたします。

欠席委員の通告はありません。書記には草野主任主査兼総務係長を任命します。会期は本日限りとします。議事録への署名は、本日出席された委員の皆様をお願いします。

教育長の報告(1)平成27年度第2回いわき市奨学資金奨学生の選考結果について、学校教育課長をお願いします。

**学校教育課長** 1ページをご覧ください。教育長の報告(1)平成27年度第2回いわき市奨学資金奨学生の選考結果について。平成27年9月24日、教育委員室におきまして、選考委員会が開催され、「2の選考結果」に記載のとおり高校生は募集定員2名に対して1名の応募、高専生は募集定員2名、大学生は募集定員6名に対しましては、こちらは応募がありませんでした。

従いまして高校生1名に対しまして、選考委員会の審議を行いました結果、1名が奨学生として適していると決定されましたのでご報告申し上げます。

なお、本年度の新規の奨学生の人数についてでございますが、一次募集で大学生等17名、二次募集で高校生1名、合計で18名となっております。説明は以上でございます。

**教育長** ただいまの説明に対して、質問ございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

**教育長** なければ、7協議に入ります。協議事項(1)平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について、学校教育課長をお願いします。

**学校教育課長** 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について説明をいたします。

別紙資料をご覧ください。平成27年度全国学力・学習状況調査に係るいわき市の結果概要版でございます。昨年度から公表しております。

全国学力・学習状況調査につきましては、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その成果と課題を検証し、改善を図るとともに、学校における児童生徒への指導の充実や学習の改善に役立てることを目的に平成19年度から実施しております。

小学校6年生と中学校3年生を対象とした調査で、国語、算数・数学の2教科に、今年度は、理科を加えた3教科に関するものです。内容は、漢字の読み書きや数の計算など主として知識に関する問題Aと、基礎的な知識を生活の様々な場面に活用する力を問う主として活用に関する問題Bがあります。

さらに、学習意欲、学習方法、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査もございます。

調査の結果につきましては、8月25日に公表され、本市の状況につきましては、学力向上支援連絡協議会、こちらの会議は小学校長会・中学校長会のそれぞれの研究部長が委員長・副委員長となりまして、市教育委員会から委嘱しております研究指導員に委員となっただき協議会を開催しているものです。ここでは、児童生徒の学力・学習状況の分析を行い、課題改善に向けた指導改善資料を作成したところでございます。

なお、本調査は、実施教科が国語、算数・数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領の全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果は、児童生徒が身につける学力の特定の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。

続きまして平成27年4月21日の実施校数ですが、小学校は66校、中学校は38校となっております。なお、小学校6年生、中学生3年生が在籍しておりません小井井小学校、川前中学校は実施しておりません。

それでは資料の1ページ、教科に関する結果の総括、それから各教科の結果につきまして説明してまいります。

教科に関する結果につきましては、小学校国語・算数A・理科、中学校国語A・理科の平均正答率は、全国平均を上回っています。

今後も、授業改善の視点から、1時間の中で身につけさせたいこと、ねらいを明確にしながらか知識・技能の確実な定着を図っていくこと、知識・技能を活用して自ら課題を解決していく学習活動を通して活用する力を育成すること、さらには、記録、要約、説明、論述といった活動、例えば、感じたことの表現、結果の報告、説明、自分の考えを整理して表現する等の言語活動については、目的を明確にして計画的に指導すること、など1時間1時間の授業の質を向上させることが必要と考えます。

#### 【小学校国語】

A、Bともに、平均正答率は全国を上回っています。

今後も、指導のねらいを明確にし、いつどのような学習内容でどのような言語活動をどのように指導するかを年間計画に位置付けて、意図的・計画的な授業実践を行うことが必要だと考えております。

続きまして2ページでございます。

#### 【小学校算数】

Aの平均正答率は全国を上回り、Bは下回っています。

Bにおいては、根拠となる事柄を説明すること、その際に言葉や数を使って記述することに課題があります。

今後は、学習した内容を実生活の様々な場面に活用したり、筋道を立てて考えたり、様々な考えを出し合いながら互いに学び合う授業を行う必要があると考えます。

また、これまでも課題となっている「割合」の指導については、基準量、比較量、割合の関係を数直線の図などを利用して明確にイメージできるような授業を低学年から系統的に行うことが重要だと考えております。

### 【小学校理科】

平均正答率は全国を上回っております。

今後も、問題解決型の授業を通して、観察・実験で得られたデータを分析し、その結果を考察し、わかったことを自分なりの表現方法でまとめるなど主体的な学習を充実させることが必要であると考えております。

### 【中学校国語】

Aの平均正答率は全国を上回っていますが、Bは下回っております。

Bでは、資料から適切な情報を得て考えを具体的に書く、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確して自分の考えを書く、など、「書くこと」の正答率が低くなっております。

今後は、自分の考えの妥当性について話し合う学習活動や段落の役割や接続語の使い方など叙述の仕方を学ぶ授業を行う必要があると考えております。

また、基幹教科として、発表、案内、報告、鑑賞、批評などの言語活動を確実に身につけることができるように、継続した指導が必要であると考えております。

### 【中学校数学】

A、Bともに、平均正答率は全国を下回っています。

数学は積み重ねが特に重要である教科であり、学年が進むごとに、既習事項の未定着があると学習内容が「わからない」、「あきらめ」などと学習活動が滞ってしまうことから、授業では、生活と関連した課題や具体物を使った創作活動、重要事項や既習事項をノートに書かせたり伝えたりする活動、考えたことを書かせたり発表させたりする活動などを意図的に取り入れる授業を行うことが必要だと考えております。

### 【中学校理科】

平均正答率は全国を上回っております。

今後は、疑問や興味・関心を持ち意欲が高まるような課題設定の工夫や小学校とのつながり生かした学習、友達との協働的な学習を充実させるなど、科学的に探求する過程を核とした授業を行うことが必要だと考えております。

続きまして3ページでございますが、児童生徒質問紙調査の主な結果でございます。

平日に、テレビ等を3時間以上視聴している小学生の割合は全国平均より低く、中学生は全国平均より高くなっています。

小中学生ともに4時間以上の視聴は減少傾向にあり、市内において、地域や学校ぐるみで取り組んでいる「ノーメディアデー」等の取組の効果が現れてきているものと考えております。

一方、「新聞を読んでいるか」については、週1～3回以上読んでいると回答した割合が、小中学生ともに全国平均より低くなっておりますので、自らの意思で文字媒体に触れる機会を多く持てるようにすることが課題であると考えます。

次に学校の授業以外の学習時間は、小学生では1時間以上の割合は全国平均より高く、中学生では2時間以上の割合が全国平均より低いものの、昨年度よりプラス2.5ポイント改善傾向が見られます。

県全体でも家庭での学習時間は増えておりますが、今後は、家庭での学習の内容や家庭学習と授業との連携、効果的な家庭学習の仕方などその質を高めていくことが課題であると考えます。

今後は、指導改善資料を各学校に配付し、同資料を日常の授業改善に活用したり、各学校における、全国学力・学習状況調査の分析と改善策の策定に利用したりするなど、学習指導の改善・充実を図り、児童生徒の学力向上に向け取り組みを推進したいと考えております。

また、学校ごとの結果につきましては、保護者や地域の理解と協力のもと連携を図りながら教育の改善を図るとともに学校の説明責任を果たすという視点から、校長の判断で内容等を吟味し、改善策など今後の取り組みを含めた公表を行うこととしております。なお、児童生徒の結果の特定が懸念される学校におきましてはその内容に十分配慮することとしております。

説明は以上でございます。

**教育長** ただいまの説明に対して、何か質問ございますか。

**委員** 1 ページの教科に関する結果の総括に関する部分で、「その目的を明確にしなごら」とあるが、具体的にどういうことですか。

**学校教育課長** 特に言語活動を例にお話しさせていただきますと、小学校1年生から中学校3年生までの発達段階に応じ、例えば、小学校3年生での言語活動では、こういうことを定着させる必要があるから、どの単元で、どの時期に実施するか、学校、そして授業者がしっかりと捉えながら、年間の教育計画に位置付けていく。

例えば、中学校2年生の社会の単元では、資料を読み、図や地図等を利用しながら、自分の言葉で表現することを習得するなど、学習の目的を明確にする。

そしてそれを計画に位置付け、突然ある教材を取り入れて、行き当たりばったりの授業を行うのではなく、1年間の計画あるいは義務教育9年間の発達段階に応じた配置をするということでございます。

**教育長** 言語活動の重視がよく言われているが、例えば言語の教科である国語や英語については、言語活動そのものが、場合によっては手段ともなるが、目的であって、他の教科はどちらかという手段でとなります。

様々な言語活動、表現活動を通して学習内容を身に付けさせる。そして、これを順守させることで、子どもたちの主体的な学習を引き出し、本来身に付けなければならない学習内容について、確実に定着させていくということだと思えます。

例えば、算数のB問題という活用問題は、いくつかの資料があり、そこを複合的に考えていかないと解けないような問題が多くて、そうなる日頃からそういう活動をしていないと、なかなかこの問題を解いていくことができない。その辺がやはり、本市の子どもたちの課題であるということがひとつ言えるのではないのでしょうか。さらに大きな課題は数学であるのかと。中学校の数学がA、Bとも

に全国平均より2ポイント以上下回っているというのは課題です。昨年度もやはり下回っていたが、改善できていない。小学校では昨年度はAもBもなんとか全国平均を上回っていたが、小学校である程度身につけていることが、中学校に入ってから3年を迎えるとだんだん落ちて行ってしまう。その辺で何かやはり解決すべき点があると思われまます。

**委員** 2ページの中学校の数学で、平均正答率が全国より低い背景として、無回答率が高いことが挙げられているが、問題を読みこなせないのか、技術的に問題が解けなかったのか、いずれかと思うが、これを学校で教え直すとなると、学校はカリキュラムをあらかじめ組んであるので、難しいと思います。

特に数学は、一つ分からないところがあると、その先を理解するのは難しく、一つひとつ段階を踏んで教えていかないと理解が前に進まない学問だと思います。

そうすると授業の中で教えるのも一つの方法だが、家庭での学習、いわゆる宿題で、現在学んでいる単元について宿題に出すとともに、以前に学習したものの、理解できていない数段階前の単元についても、復習として、宿題に二本立てでやらせるようにすれば、急に効果はでないかもしれないが効果があるのではないかと。

**学校教育課長** それでは中学校数学で無回答率が高かった分野の傾向についてご説明します。数学Aについては、比例のグラフからXの変域に対するYの変域を求める問題、これについては積み重ねの中で、理解が欠落している部分を、委員のご指摘のとおり、家庭学習において復習することが必要となると考えております。

数学Bにつきましては、言葉や図などを使い、わかり易く説明するような問題、これは全ての教科において通用する力ですが、こちらは数学の時間だけではなく、色々な科目の時間で培っていくべきと考えております。

また、昨年度、数学Aでは樹形図を利用して確率を求める問題については、学年の最後の方に学ぶため、進度がどうしても早くなってしまうという課題があったことから、これについては、管内校長会で指摘したところ、昨年度に比べ、今年度は改善傾向にあるようでした。

授業で全ての復習を行うことには限りがあるので、委員のご指摘のとおり、家庭学習を活用していきたいと考えているが、現在、ようやく家庭学習の習慣が付き始めているので、今後は、その質を高めていくような取組みが必要であると考えております。

**教育長** 県では、定着確認シートというものを数年前に作成しており、ホームページからダウンロードして使える形になっています。小学校における活用が多いが、中学校での活用は進んでいないようであるが、中学校の先生は忙しいとは思いますが、そういったものもあるので、是非活用していただきたい。

小学校の場合は、放課後、少し残して補習を行うこともできるが、中学校は部活動があるので、なかなかそういった時間を確保することが難しい。

更に、生活習慣、学習習慣を見ると、中学校の学校の授業以外の学習時間で、

2時間以上の割合が全国平均より下回っているとなると、なかなか課題が多いと言え、委員のご指摘のとおり、家庭学習を活用して復習の時間を確保するようにしないと改善につながっていない。

もっと言えば、中学校の先生たちもそのことをきちんと理解して、数学の授業改善は、第一にやらなければならない。確かに、教える進度は早くないところなきれない部分もあるけれども、しっかりと理解度を確認することで、定着率が変わってくるのではないかと思います。

しかし残念ながら、中学校の数学の授業を参観すると、旧態然とした授業が行われている学校もある。先生には、危機感を持って、授業に取り組んでいただかないと、やはりこの部分はかなり厳しいのではないかと考えています。

**委員** 教育長のおっしゃる通り、私も、中学校の先生には危機感を持って取り組んでいただく必要があると感じています。

全体的に見て、改善が見られているところは、今まで一生懸命取り組んできたその結果かなと感じています。以前から感じているが、指導改善資料を作っていると思うが、その指導改善資料が学校に一部ずつ配布されますよね。

私としては、その配布された資料について、各学校で全教職員に配布していると信じたい。

指導改善資料は時間をかけ、各教科の専門の先生方が作ったものですから、それを活かさない方法はない。それを活かすため、各学校で、その資料に基づき教科部会を行っていると感じたい。先生たちが、今、こういったところが課題で、その解決のためにはこういった教え方をするといい、といった話し合いがなされていると感じたい。

さらに、もし指導改善資料が使われていないとすれば、指導改善資料をどのように改善すれば使い勝手の良いものとなるのか、各学校から改善すべき点について、教育委員会意見を出してもらいたい。

そして、教育委員会で行う国語、数学、理科の研修会で、指導改善資料を使ってもらいたい。指導主事の先生方は、全般的な内容ではなく、ここで課題になっている言語活動を中心とした課題の克服を、指導計画や単元計画に反映していくということを指導・助言していただきたい。

言語活動は大変重要な分野なので、部分的に行っていくのはダメで、計画的に指導していく必要があることを、指導主事の先生は教えてやって欲しい。

そしてB分野については、通常の授業で用いられている問題点では、解決に必要な情報のみが与えられている。それ以外の情報が含まれているような問題は、あまり授業の中で扱われていない。B分野の問題を見てみますと、必要な情報を自分で選択して、取り出して使わなければならないが、そのところが子どもたちでできないようすが、私たちの生活の中に、そういった情報を選択するという場面は溢れており、情報選択能力は非常に重要になってくるが、では、学校としては、どうしていくべきなのか、先生方にも考えていただきたいと、今回思いました。

ただ、いわき市が頑張っていて少しずつでも成果を上げてきているので、今後も、ますます頑張っていたきたいと思います。

**教育長** ただいまの意見に、学校教育課から何かございますか。

**学校教育課長** まず指導改善資料について、学校でどう使われているのかにつきましては、何らかの形で今後、フィードバックすることを検討していきたいと考えております。また、能動的な学習が大切であると、数年来言われております。以前から「主体的な活動」というテーマはありました。こちらの方も、学校訪問を通して、ABCプランを中心に指導主事が個別の指導をしておりますが、来年度以降も、やり方をどうするかということも含めまして、さらに充実したものとなるような取組みを進めて参りたいと考えております。

**委員** 言語活動ですが、国語や数学、理科について話が出ましたが、例えば各学校の先生方で、今は数学に問題があるんだよとなっているかもしれませんが、私としては、全ての教科は日本語で行われる訳ですから、全ての教科で言語活動が大切なのではないかという思いがあります。

一学期にある中学校を訪問した時に、技術の授業だったと思いますが、子どもたちに考えさせるとか、発言を待ってそれからやらせるとか、そういう工夫が見られたので、技術という教科でも、こうゆうことがあるんだなと思ったところであり、それは保健体育でも、音楽でも一緒なのではないかと思えます。

ですから、何かお話していただく時には、そういった特に強化しようという教科はあるかもしれませんが、それだけではないんだよという、先生方全体の意識づけというか、モチベーションにご配慮いただけるといいのかと思いました。

**教育長** まさにその通りで、特に中学校は教科性が強いですが、全国学力テストの対象となっている国語、数学、理科だけが関係するのではなくて、全ての教科の先生方が関わっているという意識付け、モチベーションを持たせることをやっていかないと、やはり改善できないと言えらると思います。

**教育長** それでは、ただ今説明のあった学力テストの結果概要について、10月9日の記者会見で、公表してまいりたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

**教育長** それでは、8 その他に入ります。その他(1)各種事業の開催についてのうち、平成27年度いわき総合図書館読書週間事業について生涯学習課長、お願いいたします。

**生涯学習課長** 別冊資料1ページをお開きください。

いわき総合図書館読書週間事業につきましては、毎年、10月下旬からの読書週間におきまして、企画展示コーナーでの資料展をはじめといたしまして、各種事業を展開しているところでございます。本年度は資料に記載の7つの事業を行う予定となっておりますが、詳細につきましては、いわき総合図書館長より説明させていただきますと思います。

**教育長** それではいわき総合図書館長、よろしく申し上げます。

**いわき総合図書館長** 先ほど課長から説明がありましたが、読書週間に関連いたしまして、図書館で資料に記載の事業を計画しております。まず別冊資料の1ページの大きな2ですが、「袋中上人—いわき・沖縄・京都—」という企画展を10月20日から来年の1月24日まで開催いたします。

袋中上人は、戦国時代1652年に常磐西郷に生まれまして、江戸時代の初めにかけて、いわき・沖縄・京都で活躍した方であります。その上人がどういう時点で、どういうことをしたのか、どういう評価があるのか、それが分かる資料を展示したいと考えております。また、企画展に関連いたしまして、資料の1ページ、大きな3ですけれども、11月7日に記念講演会の開催を予定しております。

それから、それ以外で、講習会といたしまして「絵本をつくろう」、これは参加者が自分だけの絵本を手作りする、そういう講座でございます。

それから大きな5ですが、図書館文章講座、これは文章を書く楽しさ面白さを体験して、文章を書く力、さらには小説を書いてみようかなという意欲を身に付けていただくための講座で、3回講座での開催を予定しております。

それから大きな6番、図書館くらしのセミナー「薬の正しい飲み方・使い方」、これは、本年度2回目になりますが、第1回目は「くらしと法律」というテーマで開催いたしまして、2回目はくすりというテーマで、いわき明星大学の先生をお呼びして開催いたします。

それから大きな7番、データベースを使って生活に役立てようということで、今回はルーラル電子図書館、ルーラルとは直訳で田舎や田園を意味しますが、この電子図書館には、農業政策、さらには作物の作り方、また家庭菜園をする場合のアドバイス、また食と農、そんなものがデータに含まれる電子図書館になります。このデータベースを実際に活用してみて、自分の生活に役立てる、そういうノウハウを勉強していただくという講座になっております。私からは以上になります。

**教育長** ただいまの説明に対しまして、質問ございますか。

**委員** 話が少しずれてしまうかもしれませんが、先日、江戸時代の鳥居氏の話聞いて、知らないことばかりで、いわきのこと知らないことばかりだなと反省したところですが、この資料を見ると、いわきを知ること、前の教育委員会でも話したのですが、とても大切なことだと思うので、是非、こういった取組み

を読書週間にこだわらず、展開していただきたいと思ったのが1点と、それから図書館の話ではありませんが、現在、美術館でぐりとぐら展が開催されておりますが、前回の教育委員会では、図書館でもタイアップしていただけるとのことでしたが、ぐりとぐらの絵本の紹介があったりと、その辺は大変ありがたいことだと思いました。

今度は、草野心平記念文学館で星一・新一展が開催されますが、これについても、図書館でタイアップしていただきたいなと考えております。

美術館長にお尋ねしますが、ぐりとぐら展、大変評判がいいようですが、今までの来館者数を把握してありましたら、お教え願えませんでしょうか。

**美術館長** 昨日までの来館者が8,726名で、日曜・祝日がだいたい1,000名前後、多い時で1,300名の来館者があります。予想では、今週末あたりに1万名といことになり、1万3千人となると、全国展覧しているこの企画展の累計で30万名となります。傾向といたしまして、当初の予定では、お子様連れのお客様を想定しておりましたが、ただ、意外なことに、子どもの頃に読み聞かせを受けた方、現在は60代になられている方々が多く連れ立っていらっしやっており、私どもも勉強となっております。

**委員** 資料を見ると、図書館が果たす役割はすごく広いんだなあと感じます。市民の身近な読書施設としての役割もありますが、館長の説明にもありましたが、地域の特性を踏まえた情報拠点としての役割とか、生涯学習の場や機会を提供する役割、そして葉の情報といった個人が抱える課題といった内容まで含んでおり、とても広いんだなど、あらためて今日感じました。今後とも、地域の皆さんに活用していただけるよう、よろしく願いいたします。

**教育長** その他、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

**教育長** なければ、次に移ります。

第38回吉野せい賞表彰式及び記念講演会の開催について、文化・スポーツ課長をお願いします。

**文化・スポーツ課長** 別冊資料9ページをお開きください。

吉野せい賞表彰式及び記念講演会の開催についてであります。いわき市出身の作家である吉野せい氏の輝かしい文学業績を記念して設けました吉野せい賞は第38回目を迎えます。

応募作品に対し、新人の優れた文学作品を顕彰するため、11月1日に表彰式を開催するとともに、併せて記念講演会も、吉野せい賞運営委員会及び市教育委員会の主催で開催するものであります。

表彰式におきましては、吉野せい賞入賞者、吉野せい賞募集用ポスター入賞者の表彰式を行うものでございます。正式な発表につきましては、10月23日に予定しております教育長記者会見で発表することとなりますが、9月28日に選考委員会を開催し、本年度は残念ながら、せい賞の該当者はなしと、準賞1点、奨励賞2点という状況となっております。

また、応募点数は例年に比べ、若干少なかったという状況です。10月23日の選考委員会にこの結果を諮りまして、正式に決定後、直後の教育長記者会見で発表するという運びになります。

記念講演会につきましては、講師に梯久美子先生をお招きし、「女流作家の愛と苦しみ～女がものを書くということ」をテーマにご講演をいただきます。

梯先生は、日本経済新聞で吉野せいを全4回にわたり取り上げ、連載をされた方です。参加料は無料、定員は150名となっております、例年どおり、議会棟前からバスでの送迎を行う予定となっております。

**教育長** ただいまの説明に対しまして、質問ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

**教育長** なければ、次に移ります。

その他(2)次回教育委員会の開催について、教育政策課長お願いします。

**教育政策課長** 次回の教育委員会は、10月28日水曜日、午後1時30分から、当会場にて行います。

**教育長** 以上で、平成27年度第5回教育委員会を閉会いたします。